

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所
ふ り が な	よしだがわだいきぼさいかいかんれんじぎょう
1. 事業(施策)の名称	吉田川大規模災害関連事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和2年1月31日 ～ 令和8年3月31日
災害枠	(災害発生日)令和元年10月12日 (災害名)令和元年東日本台風
3. 事業費(工事費)	約27100百万円
4. キーワード	災害復旧、施工効率化、河道掘削土砂の活用、コスト縮減、自治体等との協働
5. 事業概要	本事業は、令和元年東日本台風(台風第19号)に伴い、堤防決壊1箇所を含む33箇所の越水・溢水により甚大な被害が発生した鳴瀬川水系吉田川において、延長L=31.1km、約158万m³におよぶ河道掘削をはじめ、引堤・堤防整備等の治水対策を講じる事により、再度災害を防止する事業である。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)事業連携 (b)新しい建設技術の導入、活用	(b)行政と住民・企業・学識者等との協働 (d)イベントの開催
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)当該事業による本来目的の効果 (b)コストの縮減 (f)地域の活性化 (k)施工の合理化・効率化	(a)当該取組による本来目的の効果 (f)地域の活性化 () ()

7. 特にアピールしたい点
★令和元年東日本台風の被災地域では、既に現在の「流域治水」の考え方を先取りした全国初となる「水害に強いまちづくりモデル事業」(契機:昭和61年8月洪水)に取り組んでおり、今次水害を踏まえた提案『吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」』を、国・県・関係市町村・学識者等でとしまとめ、今後も関係者が連携して水害に強いまちづくりを目指すなど、減災防災意識の醸成が進んだ。また、他事業と連携して防災拠点の整備等も進んだ。 ★事業中は、のべ約 1,000 台/日の土砂運搬車両が一般道を通行する事が予見され、地域交通の渋滞対策や安全確保等が懸念された。よって事業全体で「DX センターの活用による各工事間の情報共有」「渋滞シミュレーションの実施」「運行管理システムの導入」と「工事用道路の2車線化」に取組み、懸念解消と効率的な工事実施(土砂運搬ベースで稼働率約 40%→約 75%へ向上)を実現し、遅滞のない工事進捗が図られた。 ★河道掘削土(約158万m³)の受け入れ先確保は、最も重要な事項の一つであるが、管内事業での利用(流用)はもとより、「建設発生土の官民有効利用マッチングシステム」や「自治体等での活用」など受け入れ先と、必要土量や土質確認、搬入出時期等の調整を実施し、河道掘削土 V=約25万m³を有効した。また滞りない工事進捗の実現と、発生側と受入側の双方に事業推進とコスト圧縮の効果が得られた。 ★唯一、堤防破堤により被災した大郷町とは地元説明・意見交換を31回にわたり実施し、堤防復旧を“引堤”にて実施する事その他、同町の「復興まちづくり事業」(避難道路・防災避難緑地・防災コミュニティセンター・宅地嵩上げ)を連携・協働して行った。これら復旧復興が進む中で実施した「ミズベで乾杯」では、約 1,800 名におよぶ参加があり、大いに賑わった。

8. 事業を代表する写真及びキャプション

■河道掘削・堤防整備

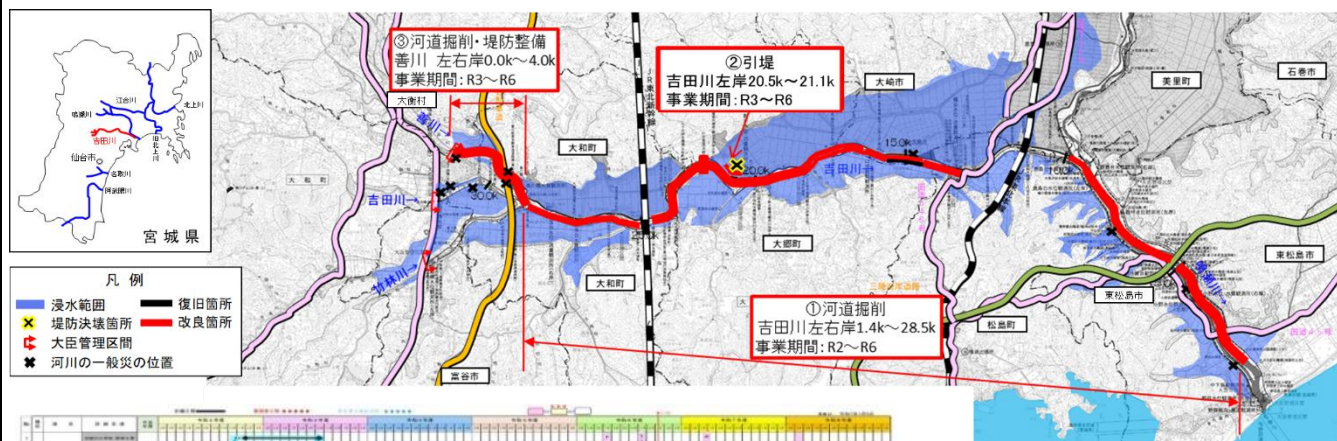


■引堤・事業連携（復興まちづくり事業）



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

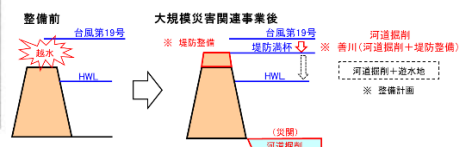
■位置図・事業区間



口大規模災害関連事業の整備目標

令和元年台風19号と同規模の洪水時に対し堤防満杯(HWL超過)で越水させない対策として河道掘削及び堤防整備(善川)を行う。

※HWL以下の流下対策は整備計画(河道掘削+遊水地整備)



■河道掘削・堤防整備 (延長L=31.1k、河道掘削V=約158万m³)



■施工効率化 (DXセンター・渋滞シミュレーション・運行管理・2車線化)



■河道掘削土砂の活用



■吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」

現在の「流域治水」の考え方を先取りした全国初となる「水害に強いまちづくりモデル事業」に対し、今次水害を踏まえ、今後の減災対策に資する提案を国・県・市町村・学識者等により『吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」』にとりまとめた。

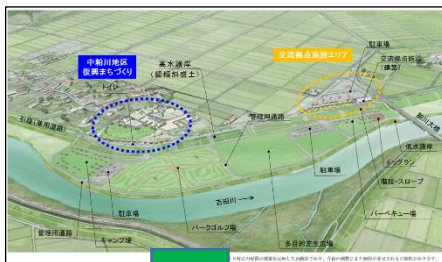


★災害対策活動拠点や車両格納庫、水防活動や避難所、コミュニティセンター(平時)を併設設置。



■復興まちづくり

唯一、堤防破堤により被災した大郷町と連携・協働し地元説明・意見交換を31回にわたり実施し。堤防復旧を“引堤”にて実施する事の他、同町の「復興まちづくり事業」として堤防天端を避難道路として整備した他、引堤後の堤内地へ防災避難緑地や防災コミュニティセンターを設置、被災宅地の嵩上げ等を行った。これら復旧復興が進む中で実施した「ミズベで乾杯」では、約1,800名の参加者があり大いに賑わった。



★整備後の被災地区



★防災コミュニティセンター完成



★約1,800人参加の「ミズベで乾杯」